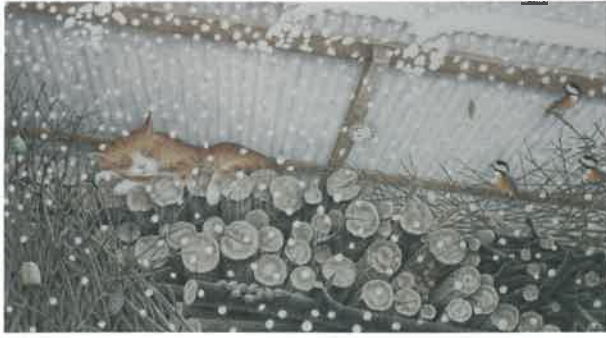


# 絵本や図鑑の挿絵として生涯描き続けた昆虫画



薪小屋・雪中の野菜  
月刊 かがくのとも『ふゆのおくりもの』  
稲田務 さく 2006年1月号 福音館書店



アブラゼミの羽化(羽化の始まり・羽化完了)  
月刊 ちいさなかがくのとも『とくべつなよる』  
稲田務 え 岡島秀治 ぶん 2009年8月号 福音館書店

兵庫県神戸市出身の昆虫画家として知られた稲田務さん(1949～2022)の回顧展を開催します。

本展では、24歳の時に描いた『アオカナブン』や『シロテンハナムグリ』から、72歳の最後の仕事になった、福音館書店月刊「かがくのとも」(2021年9月号)『ナナフシ』絵本原画まで、約50年にわたって表現を研究しながら描き続けた絵画を紹介します。稲田さんの絵画は、絵本や図鑑の挿絵として生涯描き続けた昆虫画、「烏瓜」などの植物、瓶や貝殻など身近にある素材をモチーフにして描かれた静物の細密画、発表することなく自己の存在の証しとして描き遺した黒い絵の3つに大別されます。稲田さんが終生貫いて、身近にあった好きなものと内面を見据えて描いたそれぞれの絵画は、どれも命への慈しみと純粋な感性が息づいている世界です。

ぜひご覧ください。



森の下  
月刊 たくさんのふしぎ『アリクイサスライアリ』 稲田務 え 橋本佳明 ぶん 2007年6月号 福音館書店

もうひとつの世界  
**稲田務の**

静物の細密画



カラスウリ(赤い実と緑の葉) 2002年



ビンの中の巻貝 1999年

自己の存在の証しとして描き遺した黒い絵



遊佐町白井新田 2015年



2羽のカラス(部分)



大橋町8丁目 2013年

イベント

故・稲田務氏夫人

今井眞利子氏による講演会「画家稲田務と生きて」 ■7月28日(日)午後2時より

館長のギャラリートーク ■8月11日(日)午前11時より



南画と写生画より  
 池大雅 祇園茶店之図

次回予告のご案内

■美術展覧会場

企画展 南画と写生画

■2024年9月6日(金)~10月29日(火)

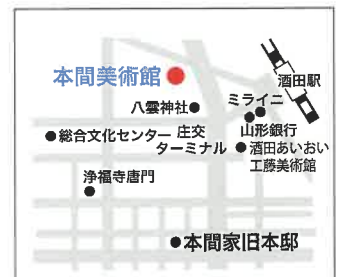
中国の南宗画に影響を受けて日本独自の様式で描かれた「南画」(文人画)と、中国や西洋の絵画の技法を取り入れて円山応挙が創造した「写生画」を紹介します。

■清遠閣

日本と中国の陶磁器

■2024年8月28日(水)~12月16日(月)

日本の伊万里や九谷、中国の白磁や青磁、染付などの陶磁器を中心に紹介します。\*会期中一部入替えあり



Facebook  
 でも見どころをご案内